

 **デイリーはやしや**

JFS-B規格取得の事例

2017年7月11日

株式会社 デイリーはやしや

会社概要

社名

dh デイリーはやしや

設立

1964年5月

資本金

8,300万円

工場数

6工場

従業員数

1,700名

事業内容

セブン-イレブンの弁当、おにぎり、惣菜、
軽食、調理パン、デザート等の企画開発
と製造



dh デイリーはやしや

工場概要

工場名	山梨工場（山梨県中央市）
稼働	1986年10月（おにぎり・弁当製造） 2013年（おにぎり・弁当終了、 真空パック惣菜開始）
売上	8億5千万円
従業員数	55名
社員数	13名



工場概要

製造品目 セブンプレミアム
チルド惣菜

製造食数 30,000食/日

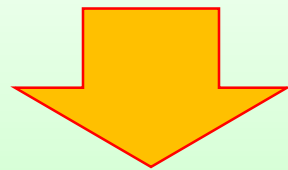
取得規格 業界HACCP (2007年～2012年)



以前の山梨工場

- 品質管理の規格・認証がない工場
- 今迄の製造体制の延長という考え方

安心・安全な取組みを証明することが必要



JFS-B規格に取組む

JFS-B規格の選定理由

① 国内の視点に合わせた規格

国際規格に取り組むには、ハードルが高い

② 発展系の規格

海外への進出を目標に

B規格からC規格へのステップアップ

③ 業界HACCPの取組継続

HACCPの知識はあり、組合から外れた後も継続していたので、理解・認識があった

工場組織

経営者



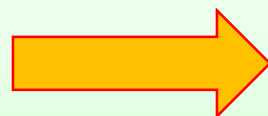
工場長

HACCPリーダー
食品安全責任者



副工場長

品質管理担当者



1名

FSMSメンバー
(食品安全マネジメントシステム)



6名

取組み内容

1. **J F S 適合への意識共有**
2. **F S M S の構築**
(食品安全マネジメントシステム)
3. **F S M S の運用**
(食品安全マネジメントシステム)

JFS適合への意識共有①

- 工場としてなぜ取得するのか？
 - ① 食品安全に関する仕組を構築するため
 - ② 自己流から国際標準の規格による食品安全管理を行うため
 - ③ 2020年のHACCP義務化への対応

JFS適合への意識共有②

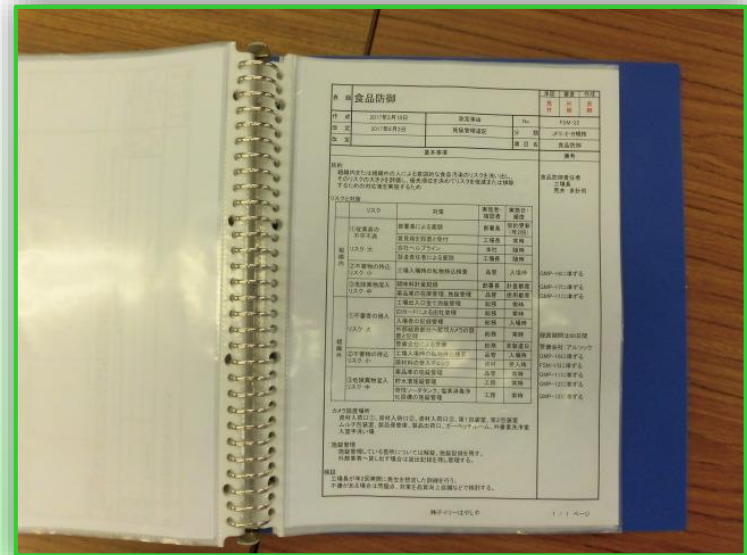
- **適合取得の心構え**

- 1) 工場の主体的活動としての取組であること
- 2) 取得後は、常に検証と改善を行い、
システムの向上が求められること

経営者・工場社員との共通認識を図る

FSMSの構築

- 要求事項の文書化
- 目的と役割の明確化
- 教育計画の作成



FSMSの運用

- 要求事項の理解
- 要求事項の実施
- 教育の実施
- FSMSの検証



監査までのスケジュール

- J F S 規格を認知 (2016年11月)
- J F S 規格取得の意向決定 (2016年12月)
2017年度中を目標
- モデル認証工場に立候補 (2017年1月)
2017年5月に監査実施
- 文書化の本格稼働 (2017年2月)
- 規格の運用 (2017年4月)
- 監査 (2017年5月末)

取組みの苦勞

- 要求事項の文書化
- 文書化から短期間で運用
- 業界HACCPから
C o d e x H A C C P への切替
- アレルゲンの管理体制の構築

課題と目標

- **検証からの改善とレベルアップ**

仕組みとして、大枠は構築できたが、運用に対して実施された内容の効果を検証していき、仕組みの精度や徹底度を確認していく必要がある

- **C規格の取得**

更なる向上を目指すためにC規格の取得とそれに伴う社業の発展を目指す

取り組んでみた感想

- F S M S の確立と文書化への取り組み
- 教育環境の確立
- ソフトによるハード面のカバー
- コンサルタントの有効性
- 品質管理に対する証明ができる

ご清聴ありがとうございました



dh) デイリーはやしや